

7月は同和問題啓発強調月間で

# わたしがたいせつに されるまち糸島

福岡県では、同和問題の早期解決に向けて、県民の同和問題に対する正しい理解と認識を深め、同和問題を通じて県民一人ひとりの人権意識の高揚が図られるよう、7月を「同和問題啓発強調月間」として、同和問題の解決に向けた啓発行事を実施しています。糸島市においても、「糸島市人権教育・啓発基本指針」に基づき、7月を「同和問題啓発強調月間」と位置づけ、街頭啓発や講演会を実施します。

## 糸島市中央講演会

### 部落差別と 向き合う若者たち

これまでの体験をみなさんに伝えたい

からさまに部落差別を行ったり、見かけたりするということはないかもしれませんが、しかし、結婚や就職、家・土地の購入などの際、被差別部落を避け、関わりたくないといった意識は根強く残っています。



講師の石井千晶さん(左)、石井眞澄さん(右)

今年度の講師は、滋賀県の被差別部落で育った妻の千晶さんと、以前部落出身者と交際することを親に反対された眞澄さんです。社会人となつてから二人はスポーツジムで出会い、親を説得して結婚しました。

石井夫妻は、これまでの体験を若い人などに伝えたいと、学校を中心に講演活動を行っています。千晶さんは、「昔に比べ差別が見えにくくなっています。千晶さんは、中学生や高校生が知らないまま過ぎると、また同じことの繰り返しになると思います。だから、部落のことを若い人にもちゃんと伝えたい」と語っています。

日時 7月16日(土)  
13時30分から

場所 糸島市人権センター

講師 石井眞澄さん、千晶さん夫妻(滋賀県在住)

演題 「部落差別と向き合う」

参加費 無料

※予約不要です

※当日は、手話通訳と要約筆記があります。

問い合わせ

糸島市人権政策課

☎(332)2075

## 福岡県同和問題 啓発強調月間講演会

福岡県では、7月の同和問題啓発強調月間に伴い、次のとおり講演会を実施します。

みなさんのご参加をお待ちしております。

日時 7月18日(月・祝)  
12時30分から

場所 クローバープラザ(春日市原町3-1-7)

内容

第1部 演奏(30分)

ピュアハート(音楽バンド)

第2部 講演(70分)

講師 石瀧豊美さん(イシタキ人権学研究所所長)

演題 「民衆の歴史を語る」

「福岡の歴史を歩こう」

第3部 映画(110分)

「信さん」炭坑町のセレーナデー」

参加費 無料

※予約不要です

問い合わせ

(財)福岡県人権啓発情報センター

☎(584)1271

## こころコラム

### 解放学級に託す思い

人権・同和教育広報委員 藤森 ハルノ

(部落解放同盟糸島地区協議会 女性部長)

#### 一 識字学級から 解放学級へ

「識字学級」は、1960年代に福岡県の各地で始まりました。差別や貧困のために学校へ行けず文字の読み書きができなかった人々の、文字の読み書きができるようになりたい、との思いから始まったものです。

この糸島の地でも、1970年から識字学級の灯がともりはじめました。文字の読み書きができるようになったことで、生活は大きく変わっていききました。バスや電車に乗るにも、人に尋ねたり付いて行かなくても一人で乗れるようになりました。役所や病院でも、自分の住所や名前を書くことができるようになりました。

#### 二 解放学級経験 交流会

各学級での学習の成果の交流と、多くの人たちに部落問題を正しく理解してもらうと、「解放学級経験交流会」を開催してきました。

始まったころは、同じ女性の立場で生活されている婦人会(当時の呼称)に参加を

呼びかけ、たくさんの人たちに部落問題について学んでいたできました。

現在では、多くの市民の人たちが力を合わせて運営する実行委員会形式で開催しています。38回目を迎えた昨年度の経験交流会では、1年間の活動報告や合唱、踊り、絵本の朗読、ハンドペ

ル演奏、手作り三味線など、楽しい中にも学習する人々の思いの詰まった発表がありました。参加された多くの人々の心に私たちの思いや願いを届けることができました。また、ステージでの発表には、校区の人権・同和教育指導員さんなど、ともに解放学級で学んでいるみなさんにも参加をしていただき、この活動の広がりが感じることができています。



私たちが40年以上学んできていることは、「差別のない社会をどうやってつくれるかです。老いても若きも一緒にあって、お互いが支え合い助け合いながら暮らせる「人権尊重のまちづくり」に向け、これからも学び、活動を続けていきたいと思っています。